（１）－３ 外来魚駆除・カワウ対策

琵琶湖や内湖などで繁殖している北米産魚類のオオクチバスやブルーギル、竹生島等に大規模なコロニー(営巣地)をつくって繁殖している鳥類のカワウは、琵琶湖や河川などにおいて旺盛な食欲で水産資源を食い荒らし、生態系に深刻な影響を与えています。在来魚介類の食害を防ぎ、従来の生態系を保全するため、滋賀県ではこれら水産有害生物の駆除や被害防除のための取組を行っています。

外来魚の駆除

～事業の背景～

琵琶湖とその周辺では、昭和 40 年頃にブルーギル、昭和 49 年にブラックバス（オオクチバス）が発見されました。これらの外来魚は在来魚やその稚魚などを捕食するため、その異常繁殖に伴って、琵琶湖漁業のみならず琵琶湖の生態系にも深刻な影響を与えています。県では昭和 60 年度から外来魚駆除対策を開始し、現在も引き続き積極的な駆除対策や繁殖抑制対策に取り組んでいます。

～事業の内容～

〈外来魚駆除促進対策等事業〉 事業費：45,080千円　補助金額：22,224千円
（補助先：滋賀県漁業協同組合連合会）

エリで捕獲された外来魚

【外来魚駆除促】

エリ、刺網、沖びき網などを用いて漁業者が行う外来魚の捕獲駆除に要する経費を補助しています。これに加えて瀬田川での捕獲数が急増し、瀬田川洗堰より上流でも捕獲されているチャネルキャットフィッシュを駆除します。令和６年度は年間捕獲目標量を80トンとし、事業を実施します。

【外来魚回収処理】

外来魚駆除促進対策事業などで捕獲した外来魚を回収し、魚粉原料として有効利用を行っています。

これらの事業を実施している滋賀県漁業協同組合連合会に対して経費を補助しています。

なお、この事業に対しては別途、全国内水面漁業協同組合連合会からの支援を受けています。

回収された外来魚

〈外来魚産卵期集中捕獲事業〉 事業費:900千円

◎南湖を中心とした外来魚集中捕獲のための電気ショッカーボートの運用維持管理

電気ショッカーボート「雷神」

これまでの調査研究から、外来魚駆除方法の一つとして、産卵期に電気ショッカーボートを用いて外来魚を捕獲することが効果的であることが明らかとなってきました。

そこで、主に南湖において、産卵期を中心に、電気ショッカーボートによる外来魚の集中捕獲を実施するための電気ショッカーボートの運用維持管理を行います。

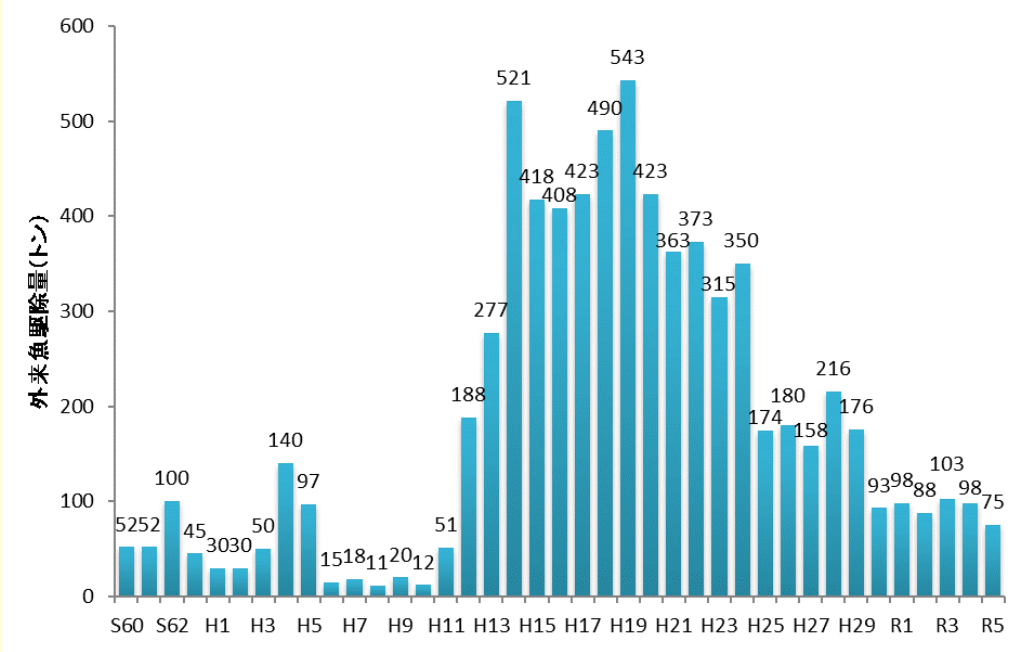
〈外来魚駆除対策検討会事業〉 事業費:120千円

近年、琵琶湖においては、これまでにない外来魚の生息量の大きな変動が起こっていることから、外来魚の生息状況や駆除状況に応じて効率的な駆除が行えるように、外来魚駆除検討会において助言をもらいながら進行管理を行います。

～事業の実績～

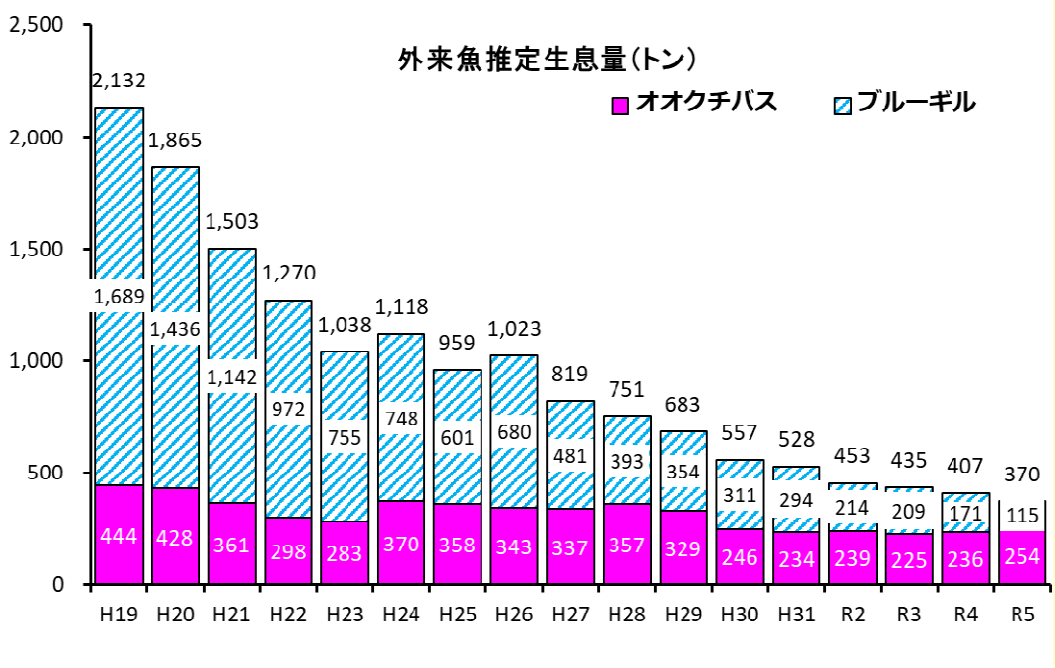
（1）外来魚駆除事業における駆除量の推移

平成14年度から外来魚駆除の取組を強化し、多い年には500トン程度を駆除していましたが、近年は生息量の減少に伴って駆除量も減少が続き、令和5年度は75トンとなっています。



（2）オオクチバスとブルーギルの推定生息量の推移

外来魚の推定生息量は、平成19年の2,132トンから平成23年には、1,038トンまで減少し、その後横ばいの状況が続きました。しかし、平成27年以降はさらに減少し、令和５年には370トンと推定されており、減少傾向が続いています。



※端数処理の関係上、合計と内訳の合算が異なる場合があります。

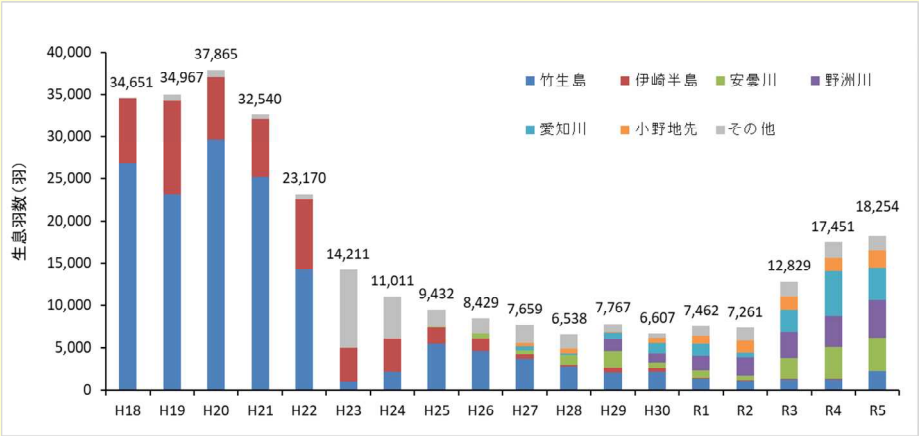
※推定は４月１日時点。

カワウによる漁業被害への対策

〈飛来地対策事業〉 事業費:4,050千円　補助金額:1,988千円
（補助先:各市町、滋賀県漁業協同組合連合会）

～事業の背景～

県内には令和５年５月時点で 18, 254 羽のカワウが生息しています。カワウは大食漢で１日に 300g～500g もの魚を食べるとも言われており、琵琶湖漁業や河川漁業に大きな被害を与えています。かつては国内最大規模のコロニー（繁地）が竹生島に存在していましたが、近年は複数のコロニーが県内に分散していることが確認されています。



滋賀県春期（５月）カワウ生息数の推移

捕獲されてゲンゴロウブナを吐き出したカワウ

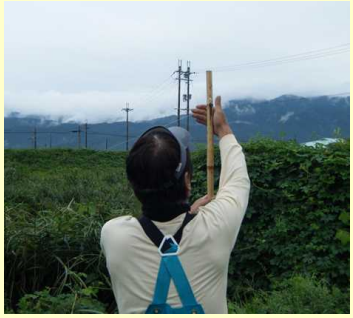
～事業の内容～

漁場に飛来するカワウに対し、防除用花による追い払いや銃器による捕獲および追い払いを実施します。また、河川域においては防鳥糸を設置することにより、カワウの飛来、着水を防止します。

さらに、アユの産卵保護水面河川のうち主要な産卵場において防鳥糸を設置して、産卵に遡上したアユ親魚を保護します。

～本事業以外の取組～

県では、琵琶湖環境部事業により個体数調整が行われていますが、近年では繁殖地が河川等の内陸部にも分散しており、民家の近くである等の理由から銃器による捕獲が困難といった課題が生じています。令和５年度から、近年生息数の増加が著しい安曇川コロニーにおいて「カワウ銃器捕獲モデル事業」が実施されており、銃器捕獲に加え安全管理マニュアルの作成等が進められています。



防鳥糸を設置する漁業者